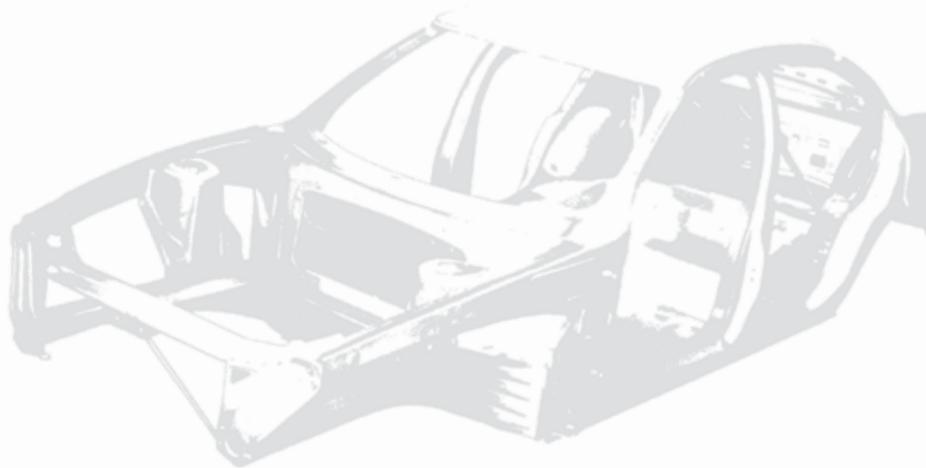


## 事業別の概況



# 鉄鋼事業部門

- 東日本震災、タイの洪水の影響により、前年度に比べ鋼材需要が減少



### 2011年度の概況

鋼材の販売量は、震災やタイの洪水影響、海外市況の低迷、円高の影響などにより、2010年度を下回りました。また、販売価格は、主原料価格の上昇を踏まえ、製品価格への転嫁につき、需要家の皆様との交渉に取り組んだ結果、2010年度を上回りました。鋳鍛鋼品の売上高は、造船向けの販売価格が下落した影響などにより、2010年度を下回りました。一方、チタン製品の売上高は、新興国のインフラ整備にかかわる需要が増加し、2010年度を上回りました。

以上の状況から、2011年度の売上高は、2010年度並の8,542億円となりましたが、経常損益は、販売価格の改定に努めたものの、主原料価格の上昇の影響などが大きく、2010年度に比べ384億円減益の146億円の損失となりました。

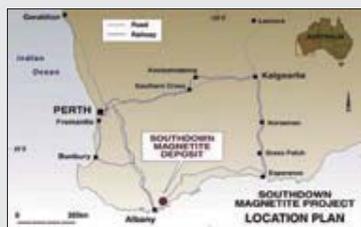
## Topics

### ■ 豪州サウスダウンプロジェクトの権益取得について

当社は、2012年3月に双日(株)(以下双日)が100%出資する豪州法人Sojitz Resources & Technology Pty Ltd(当社の参画後SRT Australia Pty Ltdに社名変更(以下SRT))の株式のうち、33%を取得しました。

SRTは、同社と豪州上場企業であるGrange Resources Limitedが現在開発に向け最終事業化調査を実施中の豪州サウスダウンプロジェクトの権益の30%を保有しており、当社は今回のSRT株式取得により、間接的にサウスダウンの9.9%の権益を保有することになりました。

サウスダウンは、高品位マグネタイトペレットフィードを生産する新規開発鉄鉱山プロジェクトであり、2015年から年間1,000万トン規模で出荷することを予定しています。当社は株式取得と同時に、今後同鉱山で生産されるマグネタイトペレットフィードを年間150万トン引き取ることに、双日と合意しました。これにより、当社加古川製鉄所ペレット



開発鉱山の所在地

工場の安定操業とコストダウンに寄与していきます。

加えて、将来的に良質鉄鉱石資源の減少と鉄鉱石価格の高位安定が予想される中、当社はこれまでも鉄鉱石権益取得を進めてきましたが、今回の参画によって、一段の自社権益保有率の向上が期待できます。

必要資源の長期的安定確保とともに、自社権益保有による鋼材事業の競争力強化を進めていきます。



鉱山開発予定地



出荷港のアルバーニー港

### ■ 製鉄所の競争力強化に向けた設備投資について

当社は製鉄所の競争力強化へ向け、加古川・神戸両製鉄所の溶銑処理能力および加古川製鉄所の厚板熱処理能力をそれぞれ増強し<sup>\*</sup>、これらを通じ、鉄鋼事業部門におけるオンリーワン製品の売上高比率を、2015年度を目処に50%に引き上げていきます。

鋼材の代表的なオンリーワン製品である自動車用高張力鋼板(ハイテン)、スチールコード、軸受鋼などは、一般的な鋼材と比較して高い清浄度が要求されることから、溶銑処理によって硫黄やりんを低減(以下、脱硫・脱りん)する必要があります。また、厚板で今後拡販に注力していく分野の一つであるエネルギー関連向け鋼材(タンク・圧力容器、ラインパイプ向け等)の多くは、同様に脱硫・脱りん処理の必要があると同時に、圧延後の熱処理が必要となります。

今回の一連の投資により、溶銑処理能力および厚板熱処理能力が大幅に向上し、オンリーワン製品の更なる拡販に向けた製鉄所の製造体制強化が実現できるとともに、溶銑処理能力の増強に伴うコストダウンを見込んでいます。

<sup>\*</sup>稼働開始時期: 加古川製鉄所 新溶銑処理工場 2014年6月末予定  
神戸製鉄所 新溶銑処理設備 2012年10月末予定  
加古川製鉄所 新厚板熱処理炉 2012年12月末予定